

実社会文脈を活用した実践力を育成する教職課程

「特別活動論」の授業設計の検討

Designing a "Special Activities" Course in Teacher Education to Foster Practical Skills through Real-World Contexts

関根 教博*

Norihiro SEKINE*

合田 美子*

Yoshiko GODA

中野裕司*

Hiroshi NAKANO*

久保田 真一郎*

Shinichiro KUBOTA*

熊本大学大学院社会文化科学教育部教授システム学専攻*

Graduate School of Instructional Systems, Kumamoto University*

＜あらまし＞ 本研究は、教職課程「特別活動論」において、実践力のある教員の育成を目指し PBL（課題解決型学習）に基づく授業設計の検討を行うものである。受講者は、企業の人事担当者に対して中等教育における職場体験を含む授業の提案をする活動を通じて、計画力・交渉力・説明力・連携調整力・省察力を体験的に習得する。形成的評価やアンケート分析を通して、実社会文脈を活用した指導のあり方を明らかにする。

＜キーワード＞ 特別活動、キャリア教育、PBL

1 はじめに

現代の学校教育は多様な課題に直面しており、教員には知識や技能に加え、課題解決に向けた実践力が求められている。中央教育審議会答申（2022）は、教職課程における「理論と実践の往還」の重要性を指摘するが、現状の大学教育では十分に実現されていない。市村（2023）によると、教員養成カリキュラムが現場の実態と乖離しているとし、教職への意欲を低下させる要因となっている。自身が担当する「特別活動論」は、知識理解に偏った目標設定や講義形式の授業形態に課題があると考えた。本研究では、「なすことによって学ぶ」特別活動の方法原理と整合する PBL を導入することで実践力が向上するだろうという仮説に基づき、受講者の実践的指導力を習得する授業設計を検討する。

2 目的

本研究では、教職課程の「特別活動論」において、受講者がキャリア教育の企画・提案に取り組む PBL 型授業を導入することによって、計画力・交渉力・説明力・連携調整力・省察力や学習意欲・教職志望意識の変容を明らかにする。

あわせて、企業との連携による真正な課題設

定が、受講者の学習活動が現実社会と接続している度合いや振り返りにおける思考の深さや内省の具体性に与える影響を検証し、今後の教職課程における実践的な授業設計のあり方に示唆を与えることを目的とする。

3 方法

「真正な問題や課題に対して、自らの調査・探究、小集団による共同の探究によって解決することを目標・骨格としている」（山田他，2023）という特徴をもつ PBL の考え方にに基づき、実社会の文脈を活用した体験的学習を設計した。表 1 のように受講者が学校経営計画を分析し、企業理念を調査したうえで、職場体験を含む授業計画の企画書を作成し、企画書の相互評価を行う。その後依頼文書を作成し発送をした後に、企業の人事担当者と Web 会議を行い、職場体験を含む授業計画について説明し意見交換を行う。得られたフィードバックを基に企画を改善し、再度、メール等による非同期で企業に提案を行う。最後に成果発表及び振り返りを行う。

4 今後の展望

ID の専門家及び教育関係の専門家からの意

見を受けて形式的評価を実施し、意見を基に改善を図る。事前・事後アンケートにより学習意欲やキャリア教育への関心、教職志望の変容を把握する。実証授業後には、ループブックを用いて教員及び受講者自身が教職に必要な資質・能力が身に付いたか評価し、受講者が作成した企画書や依頼文書などの成果物、授業後のインタビューで計画力・交渉力・説明力・連携調整力・省察力の変容を評価する。

以上の評価結果を通して、授業モデルの有効性と教育的意義を検証するとともに受講者が現実社会に近い事例の検討や教育現場で求められる真正な課題の設定について検討していきたい。

5 参考文献

- 中央教育審議会（2022）『『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～『新たな教師の学びの姿』の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～（答申）』文部科学省
 浜銀総合研究所（2022）「教職の魅力向上に関する取組の推進」浜銀総合研究所
 市村広樹（2023）「学生の特質とニーズを基にした教員養成カリキュラム概案ー『押し付ける教育』から『ニーズに応える教育』への転換ー」日本教育学会第82回大会
 山田康彦他（2023）「PBL事例シナリオ教育で教師を育てる」三恵社

表1 社会文脈を活用した実践力を育成する教職課程「特別活動論」の授業設計

○要素 ・準備	○学習活動 □評価
○課題 ・現実的な課題として位置付けるためのカバーストーリー、学校経営計画、教育課程を用意する。 ・学習期間を通じて確認できるようにLMSにアップロードする。	○カバーストーリー、学校経営計画、教育課程を理解する。 ○受講者はグループを組み、リーダーを決める。 ○グループの学習計画を立てる。
○学習計画 ・学習指導案フレームワークと説明用ワークシートを用意する。 ・受講者が課題達成に必要な情報をいつでも入手できるようにLMS上に用意する。	○企業と連携した職場体験を含む学習指導案と説明用資料を作成し、グループ間で評価する。 □学習指導案と説明用資料を作成できたら、「学習計画」は達成とする。
○依頼準備 ・実際の依頼文書やメール文を例示しいつでも参考にできるようLMS上に情報を用意する。 ・メール送信チェックリストをいつでも参照できるようLMS上に用意する。	○実際の依頼文書・ビジネス文書の例と比較しながら、公文書を作成する。 □依頼文書とメールを作成し、メール送信チェックリストに沿って正しく送ることができたら「依頼準備」は達成とする。
○意見交換 ・Web会議システムを用意する。 ・記録用ワークシートを用意する。 ・企業人事担当と事前打合せをし、企画説明及び交渉時のチェックリストを共有する。	○作成した説明用資料を基に、企業の人事担当者へWeb会議システムを活用して説明し、学校概要・学習のねらい・具体的な提案内容を明確に伝える。 ○非同期で意見交換後の連絡調整をする。 □受講者がWeb会議システムを通じて企業の人事担当者との意見交換の内容を正確にメモし、記録を作成することができたら「意見交換」は達成できたといえる。 □非同期で交渉を続け、学習指導案の改善をし、期日までに完成させることができたら「意見交換」は達成とする。
○成果発表 ・企業人事担当者との意見交換を踏まえ改善した学習計画等について、成果発表するための用意をする。 ○振り返り ・引継書のワークシートを用意する。 ・振り返りシートを用意する。	○企業との意見交換を踏まえた学習指導案を作成し、成果を進路指導主任に報告する。 ○事業の引継ぎ及び取組に対する個人の振り返りをする。 □企業の理念・業務内容と学校経営計画を踏まえた学習計画の説明用資料を作成することができたら「成果発表」は達成できたといえる。 □成果と課題及び解決策の検討を入れた引継書及び、取組を教訓化し個人の取り組みを振り返ることができたら「振り返り」は達成とする。